

会議名	第11回 まちづくりの勉強会
日時	令和元年6月26日 午後7時30分～午後9時30分
内容	<p>[テーマ] 高山の未来のための都市づくり ～30年後(2050年)の高山、何を目指して生きるんや～</p> <p>[参加者] 市民 13名 事務局 4名 計17名 (10代:0名 20代:0名 30代:2名 40代:10名 50代:2名 60代:3名 70代:0名)</p> <p>[勉強会の流れ] ① はじめに(10分) 進行:事務局 ② グループ討議(77分) 若者が住みたいまちは高山で実現できるのか、実現できるとしたらどんなふうにしたら良いかという ことをテーマに、各グループで討議 ③ グループ別発表(10分) ④ 意見交換(13分) ⑤ おわりに(10分)</p> <p>[グループ別発表] 【グループ1】ふたつの表情を持った高山(駅西と駅東) → 高山大学キャンパス化計画 ・ 駅東(古い町並)は、観光客だけでなく、住んでいる若い人たちも集まる場所にしたい。 ・ 駅西も駅東も、全く切り分けてしまうのではなく、ひとつのキャンパスというイメージで、両 方が魅力あるまちになっていけるといい。 ・ サークル活動 主体的に活動できる場所(バンドの練習、ダンススタジオ等) ・ キャンパスライフ 勉強、交流ができるフリースペース(フードコート等) ・ 生活圏(下宿エリア) バスターミナル、レンタル自転車、公民館等 生活の中で必要なもの</p> <p>【グループ2】まち全体を公園に → 一般的な「公園」とは違うイメージ ・ 「公園」と言っても、単に遊具が置いてあるようなものとは違う。言葉のイメージから離れて考 えてみた。 ・ <b>中心市街地</b> 高山らしさを深める! 緑が少ない にぎわいが必要 → 高齢者住宅を作ったら良いのでは? 歩きやすい歩行空間の確保 → 車の乗り入れ禁止、歩道整備 <u>30年後は自動運転技術が発達、交通体系が変わりバス中心となる</u> ・ <b>郊外(農山村)</b> しっかりと守っていくことが必要 農地はしっかりと確保する(水・空気・食べ物は将来にわたって重要) かやぶき屋根、春慶等、技の継承ができる場をつくる → <u>荒れ地を活用</u>(五色ヶ原も元は荒れ地) (全世界に呼び掛け、空間を創り上げていく) → 関係人口の増加によって、移住者が増加するかも</p> <p>[全体ディスカッションでの主な意見] ・ 高山の魅力について、内外に向けて情報発信していくことが大切。 ・ 高山の中だけに居たら気づかないこと(蛇口から出た水がそのまま飲めるってすごい!など) がある。外から来た人が高山の良さを広げていく。 ・ 住んでいる人が高山の魅力に気づいてもらう。地域資源を若い人たちに知ってもらいたい。</p>

[アンケートより抜粋]

- ・高山の良さ、アドバンテージをまずは地元の若者に知ってもらう機会が必要。
- ・今の高校生に「ゆっくりとした時が流れる」ことが良いことだと、どうやって伝えていくかがポイントである。

[まとめ・次回について]

- ・若者自身の声を聴くため、10代20代の方に声掛けをして、参加者を募る予定。
- ・第12回は、令和元年7月31日（水）19：30～21：30 市役所にて。